

《2004年8月例会—出張サロン in 成岩—報告》

今年度の「出張」第二弾、「出張サロン in 成岩」の概要を報告します。ただし、あくまでも「私（中塚義実）の出張サロン in 成岩」であり、施設概要、セミナー報告については、後日改めて送信します（報告書担当：山中麻耶）。

I. はじめに

II. NARAWA WING（ソシオ成岩スポーツクラブハウス）見学

III. セミナー

- 1) ソシオ成岩スポーツクラブの運営について
- 2) DUOリーグ・新規リーグのマネジメントについて

IV. フットサル

V. 懇親会、その後

I. はじめに

前日の大分（ここでも宮明透さんはじめ、“熱い”人に囲まれました）から飛行機で名古屋へ。名鉄「新名古屋」駅から急行に乗って約40分で、名鉄「成岩」駅に到着した。ここが集合場所である。駅にはすでに「出張サロン in 成岩・遠征軍」が集まっていた。

成岩に来たのは2度目である。総合型地域スポーツクラブの先駆的事例としてさまざまな形で紹介されてきた成岩スポーツクラブへ最初に行ったのは1998年の夏。Jリーグ・ホームタウン委員会の視察にもぐり込み、2年目のクラブの活動を拝見し、様々な話を聞かせて頂いた。あの時は名古屋駅から貸切バスだったので駅の印象はなかったが、「えらい小さい駅やなあ」と今回感じた。クラブハウスはそこから徒歩5分。屋根は駅からよく見える。

98年の時点では、「成岩中学校の部活動改革から始まった。部活動を平日の週3回に限定し、もっとやりたい生徒は“成岩スポーツクラブ”の会員になって、地域の人と一緒にスポーツを楽しむ。学区内の2つの小学校も利用して、学校施設で地域住民が楽しめる」というのが特徴だった。学校と地域が連携して子どもを育てるというコンセプトが明確で、校舎内の空き教室を利用したクラブハウスも斬新で、各方面から注目されていた。「こうすれば学校を拠点とした地域クラブが育つのだ!」という、まさしく“モデル事業”であった。

アイデアはいい。しかし学校施設のままでは不十分である。クラブの法人化とともに、施設の整備が次の課題であるということは、当時から話題に上っていた。森健児JFA専務理事（当時）も、半田市長が同席したシンポジウムで、「グラウンドの脇で着替えたり、ゲーム後のシャワー施設がないのは不十分。何とかしてもらいたい」と発言されていた。実際、老朽化していた成岩中学校体育館の改修計画は白紙撤回され、学校と地域の双方が利用できる「クラブハウス」をつくる話があることを聞いた。しかしそれには12億円かかる（と言われていた）。この経費を半田市が出せるかどうか…。こんな状況だったと記憶（記録）している。

その「クラブハウス」が、昨年12月についに完成した。この間、「言い出しっぺ」である榎原孝彦氏をはじめ、多くの人が動き、動かされ、大変な苦労をされてきたことは、2003年度のサロン報告書に記載されているとおりである（まだお持ちでない方は、ぜひお求めください。頒価500円とともに返信用封筒を中塚まで送って頂ければ郵送します）。

とにかく「出張サロン in 成岩」は、このタイミングで行わなければならない。高橋義雄氏と榎原氏

で連絡を取っていただき実現したこの日を、私は心待ちにしていた。

II. NARAWA WING（ソシオ成岩スポーツクラブハウス）見学

この施設は半田市（成岩は半田市の一地区である）がつくった「総合型地域スポーツクラブハウス」であり、管理運営を「NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブ」が受託している。マネージングディレクターである榊原氏の案内で、施設見学しながらクラブの概要を伺った（詳細は、後日送信される報告を参照されたい）。

十分な広さが確保されているアリーナは、バレーコートが3面はとれるだろうか。隣にトレーニングルームもある。屋上のフットサルコートは、見学したときはテニス仕様になっていた（テニスコートが3面取れる）。クラブハウスの隣には、中学のプールがある。ここも学校と地域が共同利用しているらしい。

このようなスポーツ空間が充実しているのはもちろんだが、それ以上にうれしいのは、スポーツ後に利用できる、ジャグジー・サウナ付きの大浴場であり、アリーナを見ながら飲食できる喫茶室である。コーヒー飲み放題。近々ここにビールのサーバーを置くのだという（必要ですね!）。

例えばKR&AC（神戸外人クラブ）のクラブハウスは、広くはないが、いたるところにゲームの写真や会員の名前、これまでに交流したクラブのペナントが飾られており、まさしく「クラブそのもの」という感じだが、ここは新築の、しかも“公共の”施設なので、クラブの歴史はまだ刻まれていない。これからである。だからこそ初年度の今夏、訪問できたのは意義がある。

10年後、20年後…。クラブの歴史が刻まれていくのだろう。

III. セミナー

14:00頃からセミナーが始まった。ソシオ成岩スポーツクラブのマネジメントと、DUOリーグ及びU-18東京都リーグのマネジメントについての情報交換であった。いずれのケースも「スポーツの公共性」「クラブの（あるいはリーグの）公共性」が論点であると感じた。「スポーツに対する考え方を変えていかななくては!」、そしてそのことを「より多くの人に広げていかななくては!」ということ、参加者は強く感じたことだろう（詳細は、後日送信される報告を参照されたい）。

【日時】2004年8月12日（木）14:00~17:00

【会場】愛知県半田市・NARAWA WING（ソシオ成岩スポーツクラブハウス）

【参加者（会員）】加藤貴之（(株)クレーマージャパン） 加納樹里（中央大学） 榊原孝彦（NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブ・マネージングディレクター） 高橋義雄（名古屋大学） 中塚義実（筑波大学附属高校） 中村敬（少年サッカーコーチ） 福西達男（NPO法人ポルベニルカシハラスポーツクラブ） 宮城島清也（NPO法人清水サッカー協会） 山中麻耶（YMC Aスポーツ専門学校）

【参加者（未会員）】江崎悟（元三菱電機女子バスケット・コーチ） 小沢誠（静岡市スポーツ振興課指導主事） 九野歩（東京学芸大学大学院） 鈴木舞子（東京学芸大学大学院） 宮坂雄悟（東京学芸大学大学院） 他成岩関係者2名

【テーマ（報告者）】

1. ソシオ成岩スポーツクラブの運営について（榊原孝彦）
2. DUOリーグ、新規リーグのマネジメントについて（中塚義実）

【報告書作成者】山中麻耶

IV. フットサル

セミナー後は屋上でフットサルをして汗を流した。まずは更衣室。ここは体育の授業で中学生も使用するそうだが、暗証番号を使って開閉するタイプのロッカーを使えない生徒も多いだろう（簡単なのだが、「先生、番号忘れました」という中学生が目につく）。よって中学生はロッカーを使わず、ただ更衣のみで使っているようである。もちろん我々は正しくロッカーを利用した。

セミナー参加者に地元の若者2名も加わり、総勢14名でフットサルを楽しんだ。まずは「名前を覚えよう」をテーマに約15分程度のフットサル。名前を呼ばないとパスができない。呼んだ人と違う人にパスが渡ったら相手ボール。疲れたら交替で、途中で所属チームを変えなくてはならない（従って相手チームの人の名前も覚えなくてはならない）。難しそうに聞こえるが、結構簡単にできて、かつ名前を覚えられるのでおすすめである。出張サロン遠征軍は初対面が多かったが、皆オープンな方々で、ここで一気に打ち解けたように思う（地元の人には困惑していたようだが…）。

からだどころがほぐれたあとは、東西対抗及び年齢別チーム編成で勝負した。水泳を得意とする某女性会員も、ゲームを重ねるうちに慣れてきて、あわやゴールかという場面もあった。いい汗をかくことができた。

防球ネットの低さは気になったが、屋上でのフットサルはとても気分がいい。フットサルだけでもいろいろな事業が展開できると思った。

スポーツ後は当然お風呂。そしてカフェでくつろぐ。ここでぐびッと缶ビールを飲むことで気分は最高！「ホテルMezzo in HANDA」へチェックインの後、懇親会に臨んだ。

V. 懇親会、その後

懇親会会場の「ステーキハウス英国亭」は、ホテルの斜め前にある。そう言えば98年に来たときもこのホテルだったし、2次会の会場もここだったように思う。懇親会にはソシオ成岩スポーツクラブ副理事長の高田和良氏も参加され、これまでの苦労話やこれからの夢など、いろんな話で盛り上がった。どんなことでも、はじめればはじまる。しかし「公」として行う場合、より多くの方の理解が必要になる。「スポーツの公共性とはどういうことかなのか」を、スポーツとは無関係と思っている人に理解してもらわないといけない。「地域にクラブが必要だ」ということを、クラブ員でない人にも理解してもらわなくてはならない。成岩の場合は、「半田市においてなぜ成岩なのか」ということをも、市民全体に理解してもらわなくてはならない。「民間」あるいは「私」として行う場合はそこまで考えなくてもいいのだろうが、ひとたび「公」の立場をとろうとするなら、理解の輪を広げていくことが不可欠である。「ユースリーグの公認化」にともなっているいろいろな考えさせられたことが、ここでもまたよみがえる。

2次会は、タクシーで南成岩の居酒屋へ行った。地酒がうまい！（名前を忘れてしまった）

この日はちょうど朝の2時半からオリンピックの男子サッカー、日本対パラグアイ戦。一寝入りしてから私（中塚）の部屋でテレビを見ようということになったが、来たのは高橋氏と福西氏。後半終了直前に中村氏が「寝過ぎた〜」と言いながらやって来たが、若手院生諸君はどうしたのだろう。翌朝も会うことがなかったので、真相は闇の中である（→後日判明。ぐっすり眠っていたらしい。寝る子は育つ！）。

翌日は各自朝食をとって解散。福西氏は早朝、ご自身のサッカークラブの合宿地である和歌山へ出かけていった。私と中村氏は高橋氏の車で、知多半島最南端へのドライブを経て名古屋へ向かった。

名古屋で中村氏と分かれてから、高橋氏と私は三重大大学の水上博司氏と落ち合い、サッカー協会の指導者養成講習会共通科目「スポーツの社会科学」の内容検討のためのミーティングを開いた。仲澤眞氏（筑波大学）を加えたメンバーでこの科目の内容を検討している。もちろん成岩のケースは、全国の指導者に伝えるべき大切な事例である。

伊香保もそうだったが、そこでしかわからない、地域に固有の課題がある。と同時に、どこにでも

みられる普遍的な課題もある。成岩で強く感じたのは、「公」と「私」をめぐる普遍的な課題である。それは私自身がいつも感じている課題でもある。

学校と地域をつなぐ「クラブハウス」誕生に至るまでの、NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブのこれまでの取り組みに拍手を送るとともに、これからも応援し続けたい。

以上（文責：中塚義実）